

情報を入手しよう

災害が発生する危険性が高まり、避難する必要がある場合に、横浜市は、「避難準備・高齢者等避難開始」、「避難勧告」、「避難指示(緊急)」のほか「屋内での待避その他の屋内における避難のための安全確保に関する措置(屋内での安全確保措置)」の指示」を発令します。

自動配信されるもの(PUSH型)

● **横浜市防災情報Eメール 要事前登録**
あらかじめ登録したパソコン・携帯電話に防災情報等が配信されます。
登録方法 ● 二次元コードを読み取り
● 空メールを送信 entry-yokohama@bousai-mail.jp

● **防災アプリ 要事前登録**
「Yahoo!防災速報」アプリをインストールしていただくことで、横浜市からの防災情報等をスマートフォン等で受信できます。 アプリをインストール→

● **Twitterアラート 要事前設定**
あらかじめ設定していただくことで、避難勧告及び避難指示(緊急)等の情報を、スマートフォン等で受け取ることができます。
横浜市防災ツイッターアカウント @yokohama_saigai

● **ファックス**
聴覚障害者の方の自宅(要事前登録)、洪水浸水想定区域内の要援護者施設等の事業所に配信します。

● **緊急速報メール**
緊急速報メールに対応した携帯電話に配信されます。

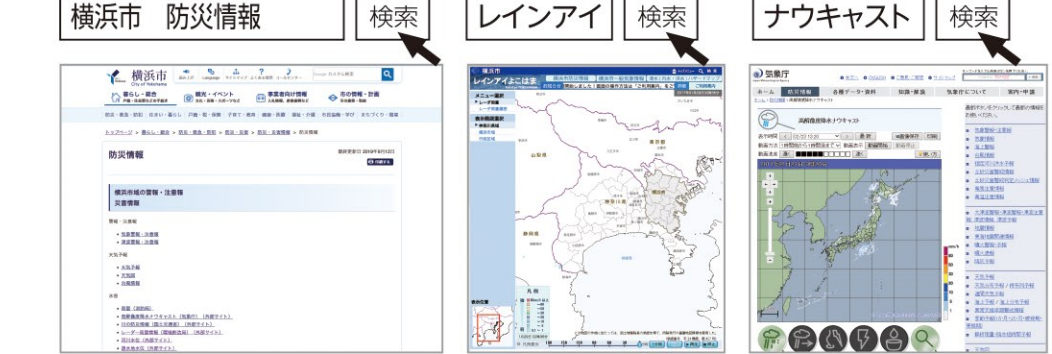
● **親水拠点警報装置・河川水位情報システムなど**
屋外スピーカーからの音声放送やサイレンにより、災害発生の危険性や避難情報等をお知らせします。

● **緊急警報放送**
テレビ・ラジオ等から警報音を発し、重要かつ緊急な災害情報を放送します。

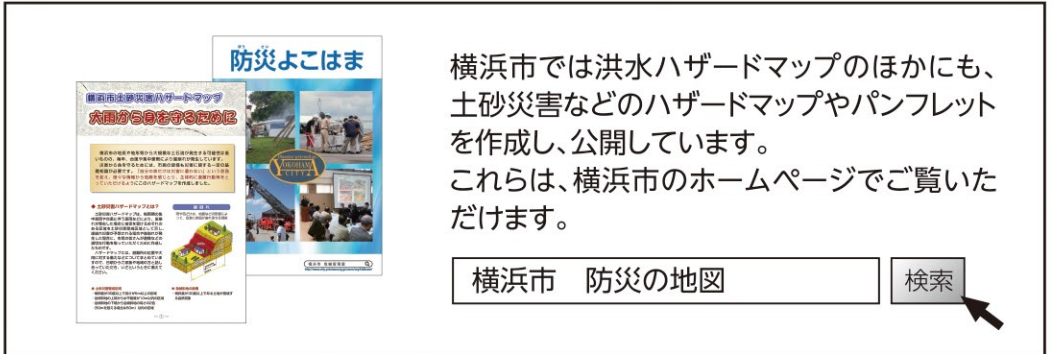
● **広報車等による広報**
状況に応じて、必要な地域へ広報車が出動します。
また、職員を派遣したり、消防局ヘリコプターを出動させることもあります。

自身で情報収集するもの(PULL型)

● **ホームページ**
横浜市 防災情報
気象警報や河川の水位、潮位等を確認することができます。
レインアイよこはま
雨量データ等を確認することができます。
降水ナウキャスト
現在の雨雲の動きや今後の動きを確認することができます。



● **横浜市トップページ(緊急情報)**
● **Twitter(横浜市防災ツイッター)** @yokohama_saigai
● **テレビ** ● **ケーブルテレビ** ● **データ放送**
● **tvk(テレビ神奈川) データ放送** ● **ラジオ**
● **コミュニティFM放送**



もしもの時にそなえよう

洪水ハザードマップで自宅と避難場所を確認しよう

- 自宅付近が洪水で浸水した時にどのくらいの水深になるのか確認しましょう(浸水深のめやすの凡例参照)。
- 自宅から避難場所までの複数の道順や方向を、洪水ハザードマップに書き込みましょう。鉄道や道路を渡る場所を確認しましょう。なお、災害の状況により、開設する避難場所は異なります。避難する際は、市・区ホームページ等で開設している避難場所を確認してください。
- 河川から離れている場所でも下水道などから水があふれることがあります。公表されている「内水ハザードマップ」を参考に、自宅付近等で浸水のおそれがある区域を確認しましょう。
- 地域では、このハザードマップを活用した訓練を行い、災害時の適切な行動につなげましょう。

避難時の持ち出し品を確認しよう

- 避難時の持ち出し品は日ごろから準備し、すぐに持ち出せるようにしておきましょう。
- 持ち出し品はできるだけ少なくしましょう(ラジオ、飲料水、懐中電灯、医薬品、ベビー用品、マスクなど)。また、リュックサックなど、両手があくものに収まる程度にしましょう。
- 避難場所には食料、水、タオルなど、必要なものを持参しましょう。

側溝や雨水ますを点検しよう

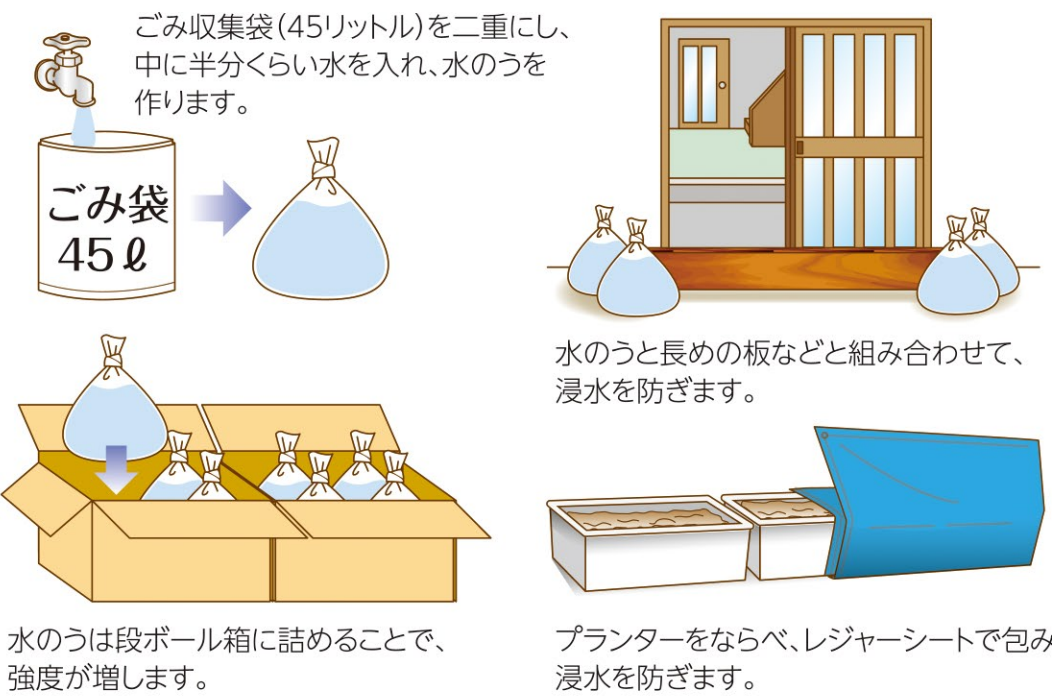
- 側溝や雨水ますをふさがないようにしましょう。
- 雨水ますの吸い込み口が落ち葉やごみで詰まると、道路浸水などの原因になります。
- 雨水ますやL型側溝の上に車乗り入れブロックなどを置かないようにしましょう。

浸水に備えよう

- 家にあるもので浸水を防ぎましょう。土のうやプランター、家庭にあるごみ収集袋などを利用した水のうなどを使って浸水を防ぐことができます。
- 大雨の際には、洗濯機、トイレ、風呂場の排水口など思わぬところから下水が逆流することがあります。排水口を水のうなどでふさぎましょう。

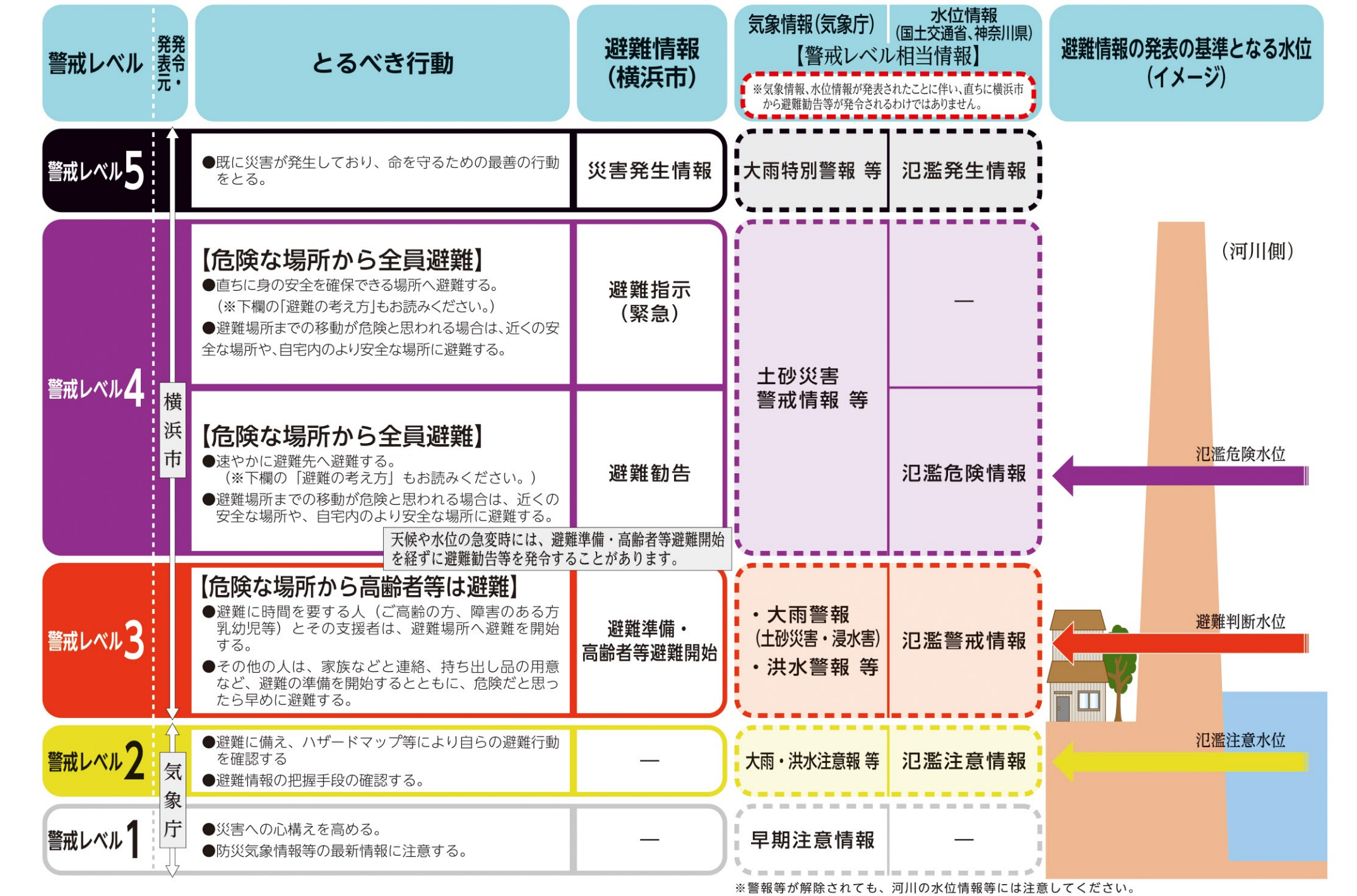


家庭でできる浸水防止対策の一例



浸水防止対策は応急処置です。
浸水の危険性があると感じたときは、早めに避難しましょう。

避難情報がでたら ～避難情報が発令されていなくても、身の危険を感じる場合は、速やかに避難を開始してください～



大雨のときはこんな点に注意しよう

こまめな情報収集を心がけよう



集中豪雨に注意しよう

突発的かつ局地的な集中豪雨に備えて、ふだんから雨の様子をチェックしておきましょう。



地下街・地下施設の浸水は危険です

浸水の危険性があると感じたときは、速やかに地上階に避難しましょう。



避難の考え方

身の危険を感じる場合は避難を開始してください。
安全な場所へ避難(水平避難)
(避難場所^(※)、近くの高台、土砂災害警戒区域外の親戚の家など)
※すべての避難場所を開設するわけではありません。避難する前にどの避難場所が開設されているか、市・区ホームページ等で確認してください。

頑丈な建物の2階以上または、近隣の高い建物へ避難(垂直避難)



建物内の安全な場所待機(屋内退避)



安全な経路で避難しよう

河川沿いや急傾斜地(崖)沿いの道は避けて避難しましょう。大雨により、側溝やマンホールの蓋が外れている場合があるので、転落しないよう十分に注意して、近寄らないようにしましょう。

隣近所へ声をかけ合おう

高齢の方、子ども、障害のある方などは避難に時間を要するため、早めの避難が必要です。洪水時には地域の皆さんで協力し合って安全に避難しましょう。